

主 文

本件上告を棄却する。

理 由

弁護人秋山秀男の上告趣意第一は、憲法三十八条一項違反をいうが、道路交通法七十二条一項後段、一一九条一項一〇号が憲法三十八条一項に違反しないことは、当裁判所昭和三十七年五月二日大法廷判決（刑集一六巻五号四九五頁）の趣旨に照らして明らかであるから、所論は、理由がなく、同第二は、量刑不当の主張であつて、刑訴法四〇五条の上告理由にあたらぬ。

また、記録を調べても、同法四一一条を適用すべきものとは認められない。

よつて、同法四〇八条により、裁判官全員一致の意見で、主文のとおり判決する。

昭和四八年二月二七日

最高裁判所第三小法廷

裁判長裁判官	江	里	口	清	雄
裁判官	田	中	二	郎	
裁判官	関	根	小	郷	
裁判官	天	野	武	一	
裁判官	坂	本	吉	勝	